

一卷頭エッセイ

「地球物理図の周辺では」の特集にあたって

川村 政和¹⁾

本誌の本年7月号の巻頭エッセイで、地質部門の行政改革に係わるキーワードの一つとなっている「地球物理図」に関連して、地球物理学の分布図の作成過程や意味についての理解が少ない点に触れた。「地球物理図」とは、固体地球科学において特定の探査対象を持たない、広域にわたる各種の地球物理学の分布図を想定している。しかしその後、その作成・研究に携わっている側としても、理解を得るための努力が必ずしも十分ではなかったのではないかという反省が生じてきた。即ち、地質調査所内で実施されている種々の研究において、各種地球物理図がよく利用されているという状況の下、それに安住して対外的PRの努力が不足していたようだ。そこで、その周辺ではどのような研究活動がなされているか御紹介しようということになった次第である。

一方、地学辞典にも載っていない行政改革作業用語を軸として、敢て特集を試みたのは、これをきっかけとして「地球物理図」を自立した一つの方向として位置づける可能性を探りたいと思ったからである。話題になる中でなんらかの見通しが得られるならば、それが「地質図」に比肩する立場を確保できるのではないかと期待している。

これまでの地球物理学の分布図というと、分布の高低をカラー表示していることもあるが、多くの場合は等値線のみモノクロ表現がほとんどで、全く面白みに欠けている。それは、専門家による利用のみを考慮している結果であって、例えば地質図等のための資料的役割というように、自らの役割を限定していたためであろう。デジタル的特性を生かした独自の立場を構築して一般にも受け入れられるには、利用目的や表現についての一層の工夫と考察が必要だろうと自覚している。

ここでは日本重力図・空中磁気図・活断層周辺地域の深部構造・MT法による深部比抵抗マッピングというところから、隣国との研究協力による「日韓マッププロジェクト」の地殻熱流量分布図、更には、地球規模のプロジェクトであるインドネシアでの地震観測-全地球ダイナミックス-という取り組みを含めて、地球物理図をとりまく我々の活動を紹介している。しかし、上述の意図はあまりに茫洋としているので読者の御意見をいただくことは難しいとは感じているが、本特集により、それらの研究について多少のPRと、わずかでも御興味を持っていただくことができれば幸いに思います。



1) 地質調査所 地殻物理部

キーワード: 地球物理図